

10. 頭を強く打ったとき



頭を強く打ったあとは、2日間程度、特にはじめの6時間は、普段と変わったところがないか注意してよく観察してください。

頭の中に出血がおこると、あとから生命に危険が及ぶことがあるので注意が必要です。

応急処置のポイント

- 吐き気や嘔吐の有無、腫の大きさ、目や手足の動きに注意しましょう。
- 頭を打ったあとすぐに泣いたか、ぼんやりしていなかったか、よく観察しましょう。
- 出血がある場合は、乾いたタオルで強く圧迫して止血しましょう。
- からだをゆすったり、たたいたりしないようにしましょう。

こんなときは、早めに急病診療所などを受診しましょう

- 頭を打った部分がへこんでいるとき。
- 頭の痛みが強くなるとき。
- 頭を打った前後のことをよく覚えていないとき。
- 吐き気や気持ちの悪さが続くとき、嘔吐を繰り返すとき。

こんなときは、救急車を呼びましょう

- 意識がないとき。
- 左右の腫の大きさが違うとき。
- 耳や鼻から、出血や液体の漏出がみられるとき。
- けいれんを起こしているとき。
- 自分の意思でからだの一部分を動かせないとき。

注意しましょう

- コブができたなら、タオルの上から氷のうなどで冷やして、様子を見ましょう。
- 頭からの出血は、清潔なタオルなどで出血部分を上からしっかり圧迫して、止血しましょう。